

## 2022年度 阿南市の温室効果ガス排出量概況

(単位:t-CO<sub>2</sub>)

温室効果ガス	年度	2013年度	2022年度		
		【基準年度】	【実績値】	基準年度との比較	
				増減	増減率
温室効果ガス総排出量 ※1		25,582	19,842	-5,740	-22.44%
エネルギー起源二酸化炭素 ※2		21,449	14,718	-6,731	-31.38%
燃料の使用		4,417	3,727	-690	-15.62%
電気の使用		17,032	10,991	-6,041	-35.47%
熱の使用		0	0	0	-
非エネルギー起源二酸化炭素 ※3		3,661	4,637	976	26.66%
メタン		32	41	9	28.13%
一酸化二窒素		435	443	8	1.84%
HFC		5	3	-2	-40.00%
PFC		0	0	0	-
SF6		0	0	0	-
温室効果ガス総排出量の削減のための措置に関する主要な目標					
電気の二酸化炭素排出係数を2013年度の値に固定して計算した温室効果ガスの排出量(単位:t-CO <sub>2</sub> ) ※4		25,582	24,271	-1,311	-5.12%
電気の使用に伴う温室効果ガスの排出量(実排出係数)(単位:t-CO <sub>2</sub> )		17,032	10,991	-6,041	-35.47%
電気の二酸化炭素排出係数(実排出係数)の平均値(単位:kg-CO <sub>2</sub> /kwh) ※5		0.70	0.48	-0.216	-30.86%

※1:「温室効果ガス総排出量」とは、異なる種類の温室効果ガスの排出量を、それぞれが地球温暖化をもたらす強さの程度に応じて二酸化炭素の量に換算して合計した量です。「地球温暖化対策の推進に関する法律」(平成10年法律第117号)第2条第5項で定義されており、その算定方法は地球温暖化対策の推進に関する法律施行令(平成11年政令第143号)で定められています。

※2:エネルギー(燃料並びに電気及び熱)の使用に伴い排出される二酸化炭素の呼び方です。

※3:エネルギー起源二酸化炭素以外に排出される二酸化炭素です。ごみに含まれる廃プラスチック類の焼却に伴い排出されます。

※4:「電気の二酸化炭素排出係数を2013年度の値に固定して計算した温室効果ガスの排出量」とは、「温室効果ガス総排出量」の算定に用いたものと同じ活動量(燃料や電気の使用量など)を用いて、同様の算定方法で計算した排出量ですが、電気の使用に伴う二酸化炭素排出量の計算に限り電気の二酸化炭素排出係数を当該年度の値ではなく基準年度(2013年度)の値を用いて計算したものです。電気の二酸化炭素排出係数は、本市が契約する小売電気事業者の選択によるほか、同一の小売電気事業者によっても年度ごとに値が大きく変動することがあります。そこで、自らの省エネルギー及びより低炭素なエネルギーへの転換などの効果を電気の二酸化炭素排出係数の変動を除いた形で評価するための目標として設定しています。なお、電気の使用に伴う二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出量の値は、「温室効果ガス総排出量」に含まれる値と同じです。

※5:「電気の二酸化炭素排出係数(実排出係数)の平均値」とは、本市が契約している小売電気事業者が複数あることから、それぞれの二酸化炭素排出係数を本市がそれぞれから供給を受けて使用した量で加重して平均した値です。この値が低減するほど、発電時に二酸化炭素を排出する量が少ない小売電気事業者と契約していることとなります。実排出係数とは、小売電気事業者の電源のうち火力発電所から排出される二酸化炭素の量に基づき特段の調整なく算出された排出係数であり、「温室効果ガス総排出量」の算定に用いられます。